教皇訪日 バチカンが公式発表

11月23日～26日 東京・長崎・広島

来日テーマ『すべてのいのちを守るため』

～PROTECT ALL LIFE

©Vatican Media

ローマ教皇庁・バチカンは9月13日（金）9時（日本時間同日16時）、教皇フランシスコの訪日決定を公式に発表いたしました。昨年9月に教皇が初めて日本訪問の意向を表明して以来、長崎教区は日本のカトリック教会全体と同じ心で、教皇の来日・来崎の公式発表を待ちわびておりました。

バチカンの発表内容

「日本政府および司教団の招請に応え、教皇フランシスコ聖下は、2019年11月23日から26日、日本に滞在し、東京、長崎、広島を訪問する。旅程の詳細については追って発表の予定。」

今後具体的なことが決まりました際には、随時カトリック中央協議会ホームページやカトリック長崎大司教区ホームページなどを通して伝えられる予定です。どうぞご参照ください。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

カトリック長崎大司教区
教皇訪日長崎実行委員会
委員長　中村 満

カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇訪日特設サイト
https://popeinjapan2019.jp

このたび、日本を訪問し長崎にも来てくださることになったフランシスコ教皇様に、長崎のカトリック信者を代表して心から感謝申し上げるとともに、キリスト信者でない方々ともご一緒にご来訪を歓迎し喜びたいと思います。

フランシスコ教皇様は2013年3月13日に就任されましたが、日本の司教協議会としては、その翌年以来招待状や直接お会いする機会などを通して、訪日をお願いしてまいりました。わたしは個人的には、教皇様が若い司祭のとき、宣教師として日本に行きたいとの願望を抱いておられたと聞いておりましたので、お願いすればきっと日本に来てくださるにちがいないと思っておりました。教皇様ご自身も、数年前から、一般謁見の講話の中で日本のキリシタン時代のことに言及されたり、「焼き場に立つ少年」の写真の頒布を指示されたりして、訪日に向けていわば伏線を敷いておられたように思います。その訪日が実現することになり、大変光栄に思うと同時に喜びに堪えません。

とくに長崎には、38年前に聖ヨハネ・パウロ2世教皇様がお出でになりました。迫害下にあった先祖たちは、ローマにおられるパーパ（お頭様）に敬愛の念を抱き、いつの日か罪の赦しを与える司祭を送ってくださると信じてひたすら待っておりました。そのため、松山競技場の野外ミサでの説教の中で次のように述べられました。「二世紀にわたってひそかに信仰を守り続けた信者たちは、遠くにパーパと呼ばれる人がいることを知っていました。今日そのパーパは、長崎の信者の言い伝えに敬意を表し、その子孫たちに直接、『イエス・キリストと同じ心で愛している』と語りかけるためにやってきたのです。」フランシスコ教皇様をお迎えすることによって、全教会の要であられる教皇様を通して全世界の教会とのきずなを深め、福音宣教の使命に目覚め、信仰生活を新たにすることになればと願っています。

一方、昨今の世界情勢はますます不安定になっています。経済摩擦、国同士の政治的な軋轢（あつれき）、地域紛争、移民問題、環境問題など、とくに核兵器の拡散が大変懸念されます。教皇様には、第二の被爆地長崎から核兵器廃絶の強いメッセージを世界中の人々に向けて発信していただけるものと期待しております。ただ教皇様に発言していただくだけでなく、わたしたちも同じ方向に向かって進み、具体的な行動をとらなければならないと思います。

数ある国々の中で、キリスト信者が極めて少ない日本に来てくださることを感謝しつつ、少しでも有意義な訪日になるよう祈りつつ、できる限りよい準備をしてまいりたいと思います。皆様方のお祈りとご支援を何とぞよろしくお願いいたします。

（2019年9月13日）

《教皇訪日の公式発表を受けて》

カトリック長崎大司教区の皆様および善意あるすべての皆様へ

長崎大司教　髙見 三明

ペトロ 中村倫明 補佐司教

司教叙階のお喜びを心より申し上げます

教皇フランシスコにより今年5月31日に長崎大司教区の補佐司教に任命されたペトロ中村倫明師の司教叙階式ミサが、9月16日（月）午後1時から浦上司教座聖堂で執り行われた。主司式は髙見三明大司教（長崎教区）、共同聖別司教は前田万葉枢機卿（大阪教区）と浜口末男司教（大分教区）が務めた。補佐司教誕生という大きな喜びに包まれた長崎教区は、司教、司祭、修道者、信徒ら合わせて約2000人が集まったミサの中で、新たに司教をいただいたことを心から感謝し、熱心に祈りをささげた。

※9月16日司教叙階式の詳報は次号11月号でお伝えします。

教皇訪日 長崎実行委員会から

9月13日（金）、教皇フランシスコの訪日が公式に発表された。教皇訪日長崎実行委員会は、長崎教区内の各小教区およびいくつかの教区に向けて「訪日教皇ミサ in 長崎」への参加募集を呼び掛け（申し込み受付期間は、発表後から9月30日まで）、入場証の送付を今後10月20日（日）から始める予定。この教皇ミサ参加募集の詳細は各小教区に案内した通りで、公式発表後にカトリック長崎大司教区ホームページ上でもお知らせした。概要は次の通り。

「訪日教皇ミサ in 長崎」
2019年11月24日（日）
午後1時30分～3時30分
長崎県営野球場
（ビッグNスタジアム）

※参加者の方へ…金属探知機による入場検査を参加者全員に行います。大混雑が予想されますので、午前9時から入場検査を開始します。午後1時までに必ず検査を終えてください。

「教皇訪日長崎実行委員会」事務局
（月曜～金曜　9時～17時）
〒852－8113　長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
電　話　095－846－5366
ファックス 095－846－5377
メール　papasama_francis@yahoo.co.jp

ほしかげ

フランシスコ教皇の訪日が近まっている。昔、受堅の時、丸暗記した『公教要理』には、「教会の目に見えない頭（かしら）は、イエス・キリストで、目に見える頭は、その代理者、ローマの司教」とある▲前回、訪日されたヨハネ・パウロ2世は、今や聖人となられた。すなわち、あの日、人々は「聖人」と出会い、確かに「聖人」をこの目で見たのだ。カトリック信徒だけでなく、多くの日本人の心に今も何かが残されているように感じる▲「あなたがたの目は見ているから幸いだ。あなたがたの耳は聞いているから幸いだ。はっきり言っておく。…あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」（マタ13・16－17）▲その昔、迫害時代のキリシタンたちは、イエス・キリストのこの地上における代理者たる教皇を見たり、聞いたりなど夢のまた夢であった。それから天地は過ぎ、今の時代に生きている者たちは「キリストの代理者、ローマの司教」を二度もこの地にお迎えすることになる。しかし、これを幸いと思うかどうかはまた別の事となってしまったか。ここにこそ、今の教会人のかかえる何かがあるのかもしれない▲今、この目は何を見ているか。今、この耳は何を聴いているか。フランシスコ教皇をお迎えする前の黙想としたい。

（三S）

「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」　教皇フランシスコ

宣教のための特別月間を過ごす⑨

受け継いだこと 伝えられたこと 伝えていくこと

土井ノ浦小教区　大平教会信徒　下野 保

教区評議会では、「宣教のための特別月間」準備委員会を立ち上げ、準備してきた。委員の一人として参加していたのだが、どうしても、イベントなどを通しての活動しか思い浮かばない。

11年前挙行された「188殉教者列福式」は、全国のカトリック信者、信者ではない人までも巻き込んで、盛大に、そして感動のうちに行われた。裏方の一人として参加し、準備が大変だった分、感動も大きかった。でも、無事に終わったという満足感、達成感からか、私自身、燃え尽き症候群みたいになり、10年ほど、何かをしようという意欲がわかなかった。そして、あれほど188殉教者（福者）に関心が持たれていたのに、世間（信徒）の関心が薄れてしまうのも早かった。

「宣教のための…」準備委員会での、「先祖が伝えてくれた信仰、これまでの自身の信仰生活の見直しなど、足元から始めていこう。イエス様の宣教は、教えと言葉と行いである。これがそろうことが大切である。教区シノドス提言に示されていることを再度確認し、実行することが、イエス様の宣教につながるのではないか」という意見をふまえてここに記したい。

受け継いだこと（幼いころの記憶）

「ミサ拝みに行くよ」と、朝早くから起こされ、灯りを持つ母に、置いて行かれないようについていく。教会の中では、グズったり騒いだりすると、自分の子、他人様の子構わず怒られていた。それでも聞かないとげんこつが飛んできた。「あいた」と、振り返ると○○ンちのおばさんだった。教会は行儀よく静かにするところ、と身にしみて分かった。

大平教会唯一の主任司祭、清水佐太郎神父様が病気療養のため引退。土井ノ浦小教区の巡回となって、朝早く「ミサだ」とたたき起こされることは少なくなったが、「朝の祈りをするぞ」と起こされる。作物の収穫時期になると、母親の朝は早い。どんなに忙しくても、疲れていても、朝晩の祈り、食前食後の祈りは欠かすことはなかった。夜中、目が覚めると、祈っている母親の姿があったことも。

裕福でなかった我が家の周囲では、もらったり、持っていったりしながら、助け合って生活していた。労働なども協力し合っていた。

入学した頃の小学校も、教会行事を優先していたように思う。生徒のほとんどがカトリック信者だったこともあるだろうが、2、3軒いた仏教徒の人たちも、教会行事には理解、そして協力してくれていた。堅信準備の要理の勉強が始まった頃、仏教徒の同級生の親から、「公教要理ばかけてやるけん、こっちに来い」と呼ばれ、実際にかけられた。この同級生の親は、要理をほとんど覚えていた。

当時の大平地区は、「清水佐太郎神父様のご指導のおかげで、よく祈り、助け合いながら生活していた」と、後年、古老たちや神父様から指導していただいていた長姉から聞く。

他宗教の勧誘とパパ様来日

「あなたは神を信じますか」「アンケートに協力してください」「よい知らせを持ってきました」「何か悩んでいませんか」などなど。進学した関東では、多くの勧誘を受けた。自分では周囲に同化しているつもりでも、田舎っぽさは消せなかったのか、改札口を出ると声をかけられ、そして追いかけてくる。

お世話になった人たちから勧められ（誘われ）、ある宗教に入信する羽目になった。幽霊信者ではあったのだが。

そのころ、ヨハネ・パウロ2世教皇が来日し、そして来崎。松山競技場でのミサがテレビで放映された時の興奮（感動）は、今でも覚えている。「いつの日にか、ローマのパパ様より、お使いが来る」ことを信じて250年ものキリシタン弾圧・迫害に耐えた先祖たち。少し自分の宗教を意識しだした頃でもあった。

信徒使徒職評議会と教区評議会

帰郷後、当時の主任司祭の撒く、「おいしい餌」につられて、気が付けば教会役員。けんか口論しながらも、いつの間にか、信徒使徒職の組織を刷り込まれていた。数年後、小教区の会長として、上五島地区の会合に参加。

私より少し上か、一回り上の各小教区の会長さん方には、圧倒された。信徒使徒職評議会、最後の10年余りは地区の副会長として携わった。10年余り副会長として仕えた会長からは、信徒使徒職の意義、役割、働きを身をもって学ばせていただいた。信徒そして使徒職の師匠でもある。教区の会議にも何度か同行させていただいた。長崎教区5地区（当時）の会長が集まって行われていた会議は、活気にあふれていた。同じ信徒として、うらやましく、妬みさえ覚えるほどの、バイタリティー溢れる先輩方の集団であった。参加して楽しくないはずはなかった。そんな先輩方を束ねる（？）指導司祭もまた、負けてはいなかった。

「信徒使徒職とは、一般信徒も洗礼と堅信の秘跡によって社会の福音化のために派遣された使徒である。全ての一般信徒が、イエス・キリストから任命され、派遣された使徒である。（第二バチカン公会議『信徒使徒職に関する教令』3参照）」

教区では、一部の人たち（教会役員）が苦労している、あるいは、一部の人たちだけで教会を動かしている、として（これだけの理由ではないが）2006年に信徒使徒職評議会を解散し、教区評議会へと移行した。

解散から移行するまで立ち会った者として、信徒使徒職時代の良い部分（残さなければいけなかったこと）を教区評議会にうまく伝えることができたかどうか、反省するところです。あの頃が懐かしい。

心の安らぎを求めて（ある巡礼者との会話）

「自分たちは、元々はプロテスタント教会に属してました。娘がカトリック信者の人と結婚したのを機に、カトリック教会に入りました。それまでは心の中がざわついていて、安らぎを感じることがありませんでした。同じキリスト教でもこんなに違うものですね」。そして、私同様、誘われて同じ宗教に入信していたこと、遠藤周作著『沈黙』を読んで、「なぜ神は助けてくれない。必要としている時に現れてくれない」など、話が尽きなかった。

このご夫婦と話しているうちに、クリスマスの頃訪問した、ある施設の少女を思い出した。小学校高学年くらいの子だった。入所している他の子どもたちには、直接、あるいは贈り物として、クリスマスプレゼントがあった。

「私の所には、いつも、神様が来てくれない。苦しい時、さびしい時、現れてくれない」

これまで、そしてこれから

これまでの自分自身を振り返ってみると、「苦しい時だけの神頼み」と言うか、自分本位の信仰心であった、ように思う。子どもたちにも、教会から離れないように、と思いを込めて、「苦しいときだけの…」で良いと思う、と伝えてきた。いま、「宣教…」について考えた時、果たしてそれでよかったのか？

父母の世代の人たちは、ほとんどの人が天に召されている。今、私自身が以前なら、年寄り、と言われていた年齢になった。

気が付けば、祈る姿がそこにはあった。そして、無償の行いをする人たちがいた。この人たちと時を共にするとき、「生かされている」と感じることがある。

「宣教のための特別月間」が始まった。この事を、この人たちの事を、子どもたちに伝えよう。そして、教会を離れている人たちにも。

ローマからパパ様が来られる日も近い。

ぶどう園

▼島原・天草殉教祭―福者記念ミサ　10月13日(日)13時、北有馬ピロティー文化センター日野江。問合先・島原教会 TEL 0957-62-2952

▼世界遺産登録1周年記念講演会「長崎から世界へ世界遺産を未来へどう伝えるか」　10月14日(月)、12月7日(土)。14時～16時20分、長崎歴史文化博物館。無料。定員140人（当日受付）。長崎県、同博物館主催。

▼祭壇奉仕者選任式　10月19日(土)11時、中野教会（宝亀小教区）。祭壇奉仕者受任者・ヨセフ鼈甲屋賢治（べっこうや）。

▼長崎ホームレスを支援する会 創立10周年記念事業・奥田知志講演会「ささえあう社会とは」　10月26日(土)14時、長崎市平和会館ホール。参加費無料。事前申込み不要。長崎ホームレスを支援する会主催。問合先・同事務局（井手）TEL 090-3194-8538

▼バチカン図書館所蔵のキリシタン関係資料に関する大分・長崎交流講座「ヨーロッパとアジアの風がふくところ」　10月27日(日)13時30分、長崎歴史文化博物館。定員140人（要申込）。申込先・長崎市長崎学研究所 TEL 095-818-8388

感謝

―寄付―

長崎大司教区
●橋口キメ様（出津）

―香典返し―

長崎大司教区
●レデンプトリスチン長崎修道院様
故スール・マリー・グラチア留守静子様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村 勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17　岩永ビル

西町教会献堂50周年

記念ミサとレリーフ除幕

西町教会の聖堂は、1959年3月の小教区設立当初は米軍から譲り受けたカマボコ兵舎からスタートし、長崎南山小学校内の仮聖堂を経て、現在の聖堂は1969年4月に完成、同年10月の里脇浅次郎大司教司式のミサで献堂されたもの。

独特な形をした聖堂のデザインは初代主任司祭であるヒルバート・ウィゼン神父が考案したものであり、外側は天に向かって飛び立とうとする鶴を表現し、教会内の天井は扇子の形をしている。2009年には長崎市都市景観奨励賞を受賞している。

9月1日（日）、西町教会は高見三明大司教司式による献堂50周年記念ミサを行った。主任司祭ポウォムスキ・スタニスワヴ神父は、ミサにあたり、「教会の建物は、いつでもどこでも、キリストの体であり、神の民であるキリスト者たちの信仰のきずなを示し、その共同体の生活と成長のしるしとなるものです。この教会を通して、キリストと私たちとの結びつき、教会の建物と生きた共同体との関係がますます深まるよう祈りたいと思います」とコメントしている。

ミサの後、聖堂の柱に取り付けた記念レリーフの祝福式（除幕式、写真）を行い、続いて、信徒会館ホールなどを会場に祝賀会を行い、皆で献堂50周年を祝った。（西町教会）

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場　所　カトリックセンター別館
連絡先　095・865・7829
時　間　月～金　10時～16時
＊休日（祝日・教区本部事務局休業日など）を除く。不在時は、留守番電話対応。

相談室室長　マリア 福田真理

在るべき姿を考える機会に

大村殉教祭

9月8日（日）、第44回大村殉教祭がシーハットおおむら・さくらホールなどで開催された。

今年は教皇フランシスコが来日・来崎される予定となっている。この記念すべき年に、日本のキリスト教の礎の地であり205福者殉教者をはじめ多くの信徒の尊い殉教の地である大村において開催されるこの殉教祭。参加者は「殉教の歴史を振り返り、殉教者の信仰を思いながら、今を生きる私たちの在るべき姿を考えてみる良い機会になった」と語っていた。

殉教祭に先立ち、放虎原殉教地では、高見三明大司教司式により「みことばの祭儀」が行われた。その後、殉教記念ミサの導入として子どもたちによるプレゼンテーションがあり（写真）、教会学校、黙想会、殉教地巡礼などで学んだ殉教や殉教者について、感じたことを一人ひとり発表した。

主催関係者は「時折、子どもならではの発表に会場全体が笑いに包まれ、私たち大人はこれまでの自己の生き方を見つめなおすこととなったのではないでしょうか。来年もぜひ大村殉教祭でお会いしましょう。そして、信仰を証しした殉教者に倣うことができるように共に祈りをささげましょう」と話していた。

2019沖縄平和学習

長崎と那覇の高校生9人が参加

8月17日から20日にかけ、教区平和推進委員会の主催による高校生を対象とした沖縄平和学習が行われた。本年度の参加者は長崎教区の8人と那覇教区の1人。4日間にわたり、沖縄県内の各地に今もなお残る戦争史跡群や、米軍基地問題に関連する場所など、十数箇所を訪れた。

世界平和を願う上でも、沖縄の戦争史跡は大変貴重であろう。太平洋戦争の激戦地であり、国内唯一の地上戦を経験した沖縄の過去と、米軍基地問題などを抱える沖縄の今を、実際に体験することができる。個人的にも、浦上出身者のひとりとして、被爆2世のひとりとして、戦争の悲惨さと平和の尊さをどう伝えていくことができるのか、あらためて考えさせられた。

教区長のバーント司教様からいただいた「沖縄の現状を実際に見ることで、沖縄の人々の心を知り、平和のために働く人になってほしい」という言葉が心に残った。

次世代を担う高校生たちにとっても、平和とは何か、平和のために何をしなければならないのかを考える良い機会となったのではないだろうか。

長崎教区助祭　青田 憲司

罪を償い、ゆるしを願う

十字架山殉教祭

十字架称賛の祝日を翌週に控えた9月7日（日）長崎中地区の主催で十字架山殉教祭が辻町の十字架山でささげられた。台風の影響が心配されたが当日は快晴に恵まれ、130人余が参加した。

十字架山は、禁教時代の信徒たちが心ならずも行った絵踏みの罪を償うため、また、それを強いた人たちの罪のゆるしを願って当時の主任司祭プトー師の勧めにより、1881年に造られた。

ミサは浦上教会主任司祭・久志利津男師主司式、宮原大地師（助任）、中濱敬司師（カトリックセンター）の共同司式によって執り行われた。

説教の中で久志師は、自身の神学生時代のことにふれ、近くにあった同級生の家をよく訪れていたことを紹介。十字架山に来ることも友人の家を訪れることも、自分にとっては同じように心が休まるところだったとの思いを語った。

共同祈願では、先祖が自分たちに絵踏みを強いた役人たちのゆるしを願ったように、私たちも主の祈りに倣い人をゆるすことができるようにと祈願した。毎年参加している男性信徒は、「浦上の信者にとってここは大切な場所。ここでミサにあずかれることに感謝しています」と語っていた。

「宣教のための特別月間」長崎教区の取り組み

教区本部事務局長　中濱 敬司

2017年6月、教皇フランシスコは全教会に向けて、宣教活動のための特別な期間とするよう、2019年10月を「宣教のための特別月間」と定められた。

日本司教団は、今年3月「ともに喜びをもって福音を伝える教会へ」（『カトリック中央協議会』ホームページ参照）というメッセージによってこの「特別月間」を有意義に過ごすよう呼びかけている。

長崎教区では、そのための準備委員会が設置され、今年5月の教区評議会総会の中でその経緯と「特別月間」を過ごす取り組みの留意点が報告された。

まず、教区レベルでは「宣教のための特別月間」に向けた特別のイベントや具体的取り組みの決定は行わないが、「一過性のものではなく今後も継続的な取り組みになるように」という教区長の意向が確認された。その上で、各地区・小教区が自ら目標を立て、それを実践することとなった。そのためのヒントとして次の3つが挙げられた。①教区シノドス提言への理解を深めること。教区シノドス提言の基本方針と優先課題を深く認識し、その推進に向けて各小教区での活動計画に反映させる。例えば、提言書の読み返し、司祭主導による勉強会、大司教による各地での講話、各小教区で教区シノドス提言の中から独自の優先課題を定め、その実施に向けて活動計画を作成するなど。②各小教区での地区（班）集会の復活。小共同体が目指す本格的な（セブンステップを含む）地区集会ではなく、信徒が気楽に集い、信仰生活の見直しなどを感じられる集いを目指す。③教皇様を迎える準備とその後のフォロー。教皇来崎を大きな宣教の時と捉え、教皇のために祈り、教皇を知るための企画を立て、教会離れの人々を誘って共に教皇のもとへ出向く。

各小教区が掲げる独自の目標と実施計画は、9月末までに教区本部へ提出することになっている。

西海で九州青年キャンプ

福岡、大分、長崎教区から集う

8月24～25日、「九州青年キャンプ2019 in 長崎」が西海市の伊佐ノ浦公園で開催され、福岡、大分、長崎教区から青年・司祭・修道者合わせて41人の参加があった。

まずはいくつかのゲームをしながら自己紹介をし、互いの緊張をほぐした。続いて行われたスタンプラリーでは、長崎教区や長崎の文化に関する問題、さまざまなクイズなどをチームの仲間と協力しながら取り組んだ。夕食はバーベキュー。

「本来ならば野外で夏の終わりを感じながら味わいたいところであった（参加者）」が、あいにくの雨。施設の軒下で食材を焼きながらの食事となった。それでも、参加者は皆、大いに笑い、語り合う時間を持つことができた様子だった。

翌25日、大瀬戸教会でミサをささげ、来年もまた集まることを約束して散会した。参加者の感想を一部紹介する。

「キャンプを通して九州の青年の仲をさらに深めることができました。みんなの上にいつもイエス様の愛と恵み、いつくしみがありますように。」

「長崎教区のスタッフの方々のおかげで、素敵な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。来年も皆さん参加しましょう！」

開催予告

第2回「長崎青年の日」

日程　11月3日（日）～4日（月）
場所　長崎市内の予定

「教皇様をお迎えするにあたって」という内容で青年の集いを予定しています。お楽しみに。

新刊良書

★教皇フランシスコ使徒的勧告　キリストは生きている

訳者＝カトリック中央協議会事務局

「神はあなたが大好きなのです。人生に何があろうとも、決してこれを疑ってはいけません。いかなる状況にあっても、あなたはどこまでも愛されているのです。」

「若者、信仰、そして召命の識別」をテーマとした2018年10月に開催されたシノドス（世界代表司教会議）を受けて、19年3月に公布された使徒的勧告。

今もわたしたちのそばで生きておられるキリストからのメッセージを伝え、自己の召命に忠実であるよう青年キリスト者を励ますとともに、彼らに寄り添う立場の司牧者や信徒にも、その成長や活躍の障害や足かせになることのないよう貴重な示唆をなす文書。

カトリック中央協議会、税別1400円。

「被爆十字架」安置される

浦上教会被爆マリア小聖堂へ

祭壇向かって左に安置された十字架

今年8月7日に米国オハイオ州ウィルミントン大学平和資料センターから浦上教会に返還された「被爆十字架」（本紙2019年9月号既報）が、9月6日（金）浦上教会被爆マリア小聖堂に安置された。

被爆十字架は、旧浦上天主堂の祭壇にあった聖母像（原爆投下により『被爆マリア』となった像）の天蓋の上に一時立てられ、原爆投下時は別の場所にあったとみられる。被爆後、がれきの中から米兵が発見し、十字架はアメリカに渡って、その後、37年間大学平和資料センターで展示保存されていた。この8月、同センターの厚意により浦上教会に返還されている。

被爆十字架の安置式は、毎月初金曜日に同教会女性部が主催するミサに先立って行われた。久志利津男主任司祭は、「かつて共に祭壇にあったマリア像と同じ場所に安置することがふさわしいと考えた。来年2020年は被爆75年を迎える。一つの大きな節目を前にしたこの1年、よりいっそう平和を求める心をもって過ごしたい」としている。

教皇様を迎える準備

「祈りの折鶴」各地から集まる

今年11月に訪日される教皇フランシスコを迎える準備として、教区家庭委員会が小教区を通し各家庭へ呼び掛けていた「祈りの折鶴」（本紙2019年8月号既報）が9月21日現在、徐々に集まってきている（写真）。

この計画は、「教皇様への祈り」を共通の祈りとし、さらに教皇の意向に合わせた任意の祈りを加えて各家庭で祈り、1羽の折り鶴に託して贈呈する、というもの。募集期間だった8月の1カ月間で寄せられた折り鶴は今後、教区修道女連盟の協力を得ながら最終的には千羽鶴の形にまとめられる。そして訪日時に何らかの方法で教皇のもとに届くよう「教皇訪日長崎実行委員会」に預けることになる。

家庭委員会関係者は、「私たち長崎の信者は親から子へ、子から孫へと家庭の中で信仰を受け継いできました。その長崎の信者であることに誇りを持ちながら、教皇様を迎える心の準備として始めた『祈りの折鶴』は個人・教会・地区・教区全体へと繋がれていきます。今回、折り鶴は集められますが、『家庭での祈り』は今後も続けていただきたいと願っています。そして、その祈りは長崎教区全体を繋ぐ『心のロザリオ』となり、世界を繋ぐ祈りのロザリオとなることを期待しています」と話している。

教区家庭委員会からお知らせ

2020年版カレンダー

「ともにあゆむ」発行

カレンダー「ともにあゆむ」の販売も今回で3回目となりましたが、これまでと同じように、典礼暦年に重きをおいたものになっています。

信者は一年を通してイエス・キリストの生涯と全神秘を記念し、その恵みにあずかります。ぜひ、このカレンダーをご利用いただき、典礼暦年を意識した生活を送っていただけたらと願っています。

また、今回は2018年7月に世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」について、12の構成資産の簡単な説明を載せました。いま一度これらの遺産について興味をもち、巡礼などに役立てていただけたらと思います。なお、長崎大司教区では日曜日ごとに永久聖体礼拝を行う習慣がありますので、その担当教会も記載してあります。

余白部分も今回から大きくなり、さらに使いやすくなりました。

このカレンダーがいつも家庭の中にあって、皆様の信仰生活に役立つことを心より願っています。

教区家庭委員会　川原拓也

★カレンダーは10月中旬頃販売開始予定。1冊800円。問い合わせは教区家庭委員会（担当・辻）。TEL 095-842-4450

「共に生きる学び」

上五島地区で講演会

9月1日（日）13時から青方カトリックセンターを会場に、教区家庭委員会上五島地区と上五島地区評議会女性部の共催による「共に生きる学び」の講演会が開催され、約200人が集まった。講師は、聖フランシスコ病院修道女会の石岡ヒロ子修道女。

関係者によると、講演会後、「『上五島にもホスピス（緩和ケア専門の病棟）があったらいいのに』といった声も聞かれた」という。

同テーマの講演会は、今年6月にも長崎市内（カトリックセンター）で行われていて、今後は佐世保地区でも女性部主催により、11月3日（日）13時から佐々教会で開かれる予定。

みことばにふれて 163

古里 慶史郎 神父（フランシスコ会、本原教会）

向こう岸へいこう

ここ数年来、とても気にしている福音書の箇所があります。それはゲラサという異邦人の土地での、ある青年の悪魔払いのお話です（マルコ5・1以下）。

この人は墓場に住んでおり、手足を縛られており、自分の窮状を「これほど苦しいんです」と言葉にして周囲の人に伝えることもできずに、昼も夜も大声で叫び声を上げ続けるしかないほど追い込まれています。そして「自分の体を石で傷つけて」（フランシスコ会訳）いました。自分の体を傷つけるとは、現代の言葉で言えば「自傷行為」ということになるでしょう。

こうした状況は、実は現代社会の中にも少なからず存在するのではないでしょうか。これほどまでに追い込まれ、声を発することもできずに、自分自身の体と心をうまくコントロールできなくなって苦しんでいらっしゃる方は、ひょっとすると皆さんの周りにもいらっしゃるかもしれません。あるいは読まれている方の中にも同じようなつらい状況にある方もいらっしゃるかも。実は筆者自身、一時期ほんの少しだけ体調を崩しまして心身を休めるために少し仕事をセーブしていた時期がありました。こうした時は周囲の人に自分の状態を理解してもらえないつらい状態が続きます。同じような状態は、現代特有のうつ病などのトラブルをはじめ、カウンセリングや多くの投薬治療によって心の状態を安定させることが必要であるような苦しい状況を連想させます。リストカットなどの自傷行為を繰り返す若者なども、同じ悩みを抱えているのかもしれません。

そしてこのつらい状況は、周囲の人々にも及びます。なんとかそばにいて力になりたいのに、本人にしか分からない苦しみの本質を理解することができず、ただ見守るだけしかできないからです。家庭の中や、時には教会の中でも、同じことが時々起こります。

しかし今、このような状況にあるゲラサの若者のところに、イエス様は「向こう岸に、あのゲラサの若者のところに行こう」と弟子たちを招きます。彼の近くに行くまでには、まるで前途を暗示するかのように湖に嵐が起こり、行く手が阻まれます（マルコ4・35以下）。しかしキリストは「黙れ。静まれ」（マルコ4・39）と嵐を叱り、乗り越え、この青年のもとに突き進みます。やがて青年はイエス様とその弟子たちが、墓場の奥まで足を踏み入れ、自分のもとに来てくれることを目撃することになるでしょう。青年の苦しみの原因となっているような悪魔的な力の根源を追い出すのは今も昔も容易なことではありません。しかし、イエス様はなによりも弟子たちに、この青年の深い苦しみを慈しみの神が決して見捨てず、手を差し伸べているのだということを示し、理解してほしかったのだろうと思います。

複雑な現代社会の中で多くのストレスを抱え、身動きができないほどに疲弊して苦しんでいらっしゃる方々には、まずは専門的な医療とカウンセリングのサポートが必要ですが、さらにその上に、「神の慈しみがあなたを決して見捨てない」というイエス様の思いが深く伝わっていきますように、私たちも心を合わせて祈っていきたいと思います。

イルミナ

出口セイ修道女

（純心聖母会）

8月19日、聖フランシスコ病院で逝去。80歳。

1938年長崎県生まれ。61年入会。63年初誓願、72年終生誓願。初誓願後から本会の長崎、東京にある中学・高校・大学の教育現場で司書として58年間務めた。その間、司書の使命感に燃え、研さんを積みながら使徒職に励んだ。親切で思いやり深く、茶目っ気な性格は出会った人々を和ませた。

2005年から体調を崩し、17年に胃がんと診断され、入退院を繰り返しながらも苦しさを口にせず、その人柄は変わることはなかった。昨年11月からロザリオの聖母修道院で療養していたが、今年6月に入院。聖堂で祈ることを度々望み、十字架上のキリストに全てをゆだねていたが、19日朝方、眠るように静かに御父の御許に召された。

葬儀ミサ、告別式は8月20日本部聖堂で行われた。

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

不動産・会社・法人の登記や相続の手続
司法書士　山下 緑 事務所
代表者 ミカエル 山下 緑
所属 諫早教会　洗礼 井持浦教会　堅信 福江教会　結婚 浦上教会
〒854-0072 諫早市永昌町20-5　電話 0957-25-4886

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦 幹雄
長崎市上野町12－3
TEL（095）(代)847－7151
844－1420

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭　検索　事務局　ペトロ　田川慶司
0120-44-6666